



小雨が降る中、「石中ソーラン」
を保護者らと一緒に踊る児童たち

小友小・最後の運動会

思い込め石中ソーラン

由利本荘市の小友小学校（加賀秀和校長、107人）は17日、閉校前の最後の運動会を開催した。小雨が降る中、保護者や地域住民が駆けつけ、児童たちに声援を送った。運動会の最後にはこれまで継承されてきた「石中ソーラン」を踊った。

小友小は来年4月に子吉小のほか、尾崎小の一部と統合する予定。石中ソーランは2001年に旧石沢中学校の生徒たちが考案した踊りで、05年に同校が閉校した際に石沢小へ引き継がれ、21年の小友小との統合で継承された。

運動会に参加した児童たちは100m走や玉入れ、リレーなどに汗を流した。締めくくりの場

面では音楽に合わせて力強く石中ソーランを披露。2回目には保護者や地域住民らと一緒に踊った。

6年生の澤田美瑛さんは「リレーや綱引きが思い出になった」と運動会を振り返った。石中ソーランについては「運動会で毎回踊ってきたので思い出深い。今後も継承していったほしい」と話した。

加賀校長によると、統合小で石中ソーランが残るかについては現時点では未定という。「これまで引き継がれてきたものなので、統合した小学校でも残すようにお願いしていきたい」と話した。

（神谷紗耶加）